

硫黄島での研修を終えて

私はこの研修で硫黄島に初めて訪れた。鹿児島県出身なのだがここ硫黄島、三島村のことは何も知らなかった。船から見る硫黄島は火山活動によってできた自然の力を彷彿させる景観に圧倒され、温泉が流れ出る海岸は不思議な色でまるで別世界だった。天気が思わしくなく硫黄岳の雄姿は見るができなかったがそれをカバーするだけの十分なインパクトがあった。鹿児島港から 3 時間強でつく硫黄島は、奄美大島と徳之島で小学校の常勤講師をしていた私にとって移動が楽で思ったほど不便を感じなかった。しかし奄美航路の船に比べ、とても小さい船での運搬になる硫黄島はよく船が欠航するそうだ。火山等の影響で島での農業はとても厳しく自給自足が難しいため、船が欠航し物資が止まると島から物が無くなってしまうこともよくあるという。島にある小さな商店で駄菓子を購入した際も鹿児島本土では 30 円で買える物が、運搬料がプラスされて 40 円になっており経済的負担が大きいとそれに伴う目立った仕事や産業が多くなく現金収入が厳しい硫黄島での生活は大変だろうと想像できる。研修の中で硫黄島の主な産業は漁業ではなく畜産業であることにも驚いた。海に囲まれた離島だからこそ漁業が盛んだらうと思っていた私の考えは浅はかで、実際は船のメンテナンスや燃料代にみあった収穫量や競り場が無いことがあげられた。畜産業は牛になるが草で育てることができ出荷するまで時間はかかるが船の運搬費用を差し引いても黒字になる見込みがあるという話を聞き納得した。これまで島での生活や産業についてじっくり考えることがなかったので実際に硫黄島でいろいろな場所を見学しながらこのような話をきくことができたことはとてもいい経験になった。

離島の抱える問題として教育問題は深刻である。島民だけでは子どもの人数が少なく学校を存続させることが厳しい。そこで硫黄島では潮風留学を実施し鹿児島県内外から児童・生徒を募集し教育を行っている。前の環境では学校に居場所がなかった子どもたちも、硫黄島ではのびのびと学習に取り組み夢をもって島からはばたいていくということだ。小さい学校は統合し大きい学校でひとまとめで教育を行う方が合理的で予算もかからないが、このように小さい学校は小さい学校できちんとした役割がある。学校を中心に島全体で子どもたちを受け入れ、育てる体制は素晴らしかった。小学校での複式学級や中学校での教科専任教師の確保など、大きな学校と比べると不利な部分もあるがそれに負けないよう学校職員を中心に取り組んでいる姿が印象的だった。

教育の充実は島の発展に深くかかわってくる。子どもが育つ地域は元気になる。先にも述べたが、硫黄島では潮風留学制度があり学区外からも小中学生の受け入れが可能となっている。硫黄島で教育を受けることのメリットを全面的にアピールできれば硫黄島の学校に通いたい、通わせたいという人が増える。児童・生徒数が増えれば学校職員の定数も増やすことができ、学年別の指導や教科指導がより丁寧にできる。研修の中で、硫黄島で取れる硫黄を使って花火を作る授業を行った話しを聞いた。聞いているだけでわくわくして、きっと子どもたちも同じ気持ちで授業を受けたらと思う。このようにどんどん硫黄島の特色を生かした授業で子どもたちにうまくアピールしていけば、硫黄島で学ぶ付加価値が高まる。私は美術専門なので硫黄島での図画工作・美術を考えると、硫黄島は自然が豊かでスケッチをする場所に困らないので絵画の授業に取り組んでみたいと思った。子どもたちと一緒に島を散策し自然の美しさ、生活の一部を絵に表現し展覧会を開いてもおもしろいと思う。硫黄島には歌舞伎公演「俊寛」やジャンベスクールもありこのような文化活動を巻き込んで島民参加型で硫黄島芸術祭を開くなど、おもしろいことがたくさんできる気がする。硫黄島にあるものを子どもたちの視点で見つめ表現したらきっといいものができる。それはきっと島の人たちだけでなく硫黄島を知らない人たちも元気にできるものになるのではないだろうか。

初めての硫黄島はとても刺激的で1泊2日の滞在はあまりにも短かった。この講義をきっかけに硫黄島に興味をわいた。次は晴天の硫黄島を訪問したい。私は教員免許をもっているので教師として硫黄島に赴任して子どもたちと学んでみたいとも思った。